

# 横田基地の 撤去を求める 西多摩の会

# 結成総会で「基地のない西多摩を」 の思いみなぎる

in羽村コミセン  
8 / 3 1



去る8月31日、羽村コミュニティーセンターにおいて「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の結成総会が開催され、約130名が参加をしました。第1部では会則などが承認され、西多摩地域で初めての横田基地撤去を目的とした組織が誕生しました。第2部では小泉親司・元参院議員が記念講演をおこないました。記念講演の大意をお伝えします。

## 小泉親司さんの講演 - - 米軍再編は漂流している

みなさんこんにちは。おまねきいただき、ありがとうございます。西多摩で、こうした会が結成されたことにたいして、頼もしく思い、励まされております。

さて、まず最初に、「米軍再編」という名の米軍基地強化がどうなっているかという話をしたいと思います。一言で申し上げますと、全国の多くの「基地はもうごめんだ」という声が日米両政府を追いつめ、決して日米両政府が考えたとおりに事はすすんでいない現状にあるということです。

ローレスという米軍再編問題でアメリカ側の代表をやっていた人物は、「福田政権になってから、再編実施が漂流している」と言っています。



小泉親司さん

私は先週も沖縄に行ってきたんですけども、新基地の建設計画が決まって11年が経過した今なお、杭1本も打たせておりません。今年6月の沖縄県議選挙では野党が与党をうわまわる結果となり、県議会では「新しい基地の建設は反対である」という意見書が採択されました。傍聴席からはウォーという声がおきたそうです。

また、座間市では市長さんが「キャンプ座間への陸軍新司令部の移転は、ミサイルが打ち込まれても断固として阻止する」と言っていたのですが、最近、容認する態度に変わってしまいました。ところが新聞記者が「市長は容認したのか？」と聞くと「いや私は容認していない」と言うのです。つまり、実際には国などの圧力に負けて反対の旗を降ろしてしまったのに、座間の市民の民意はまったく変化がないためにそのことを認めることができない、という状況にあるわけです。

さらに、アメリカの大統領選挙、日本では総選挙もこれからたたかわれます。私たちが大いに運動を広げることによって、米軍再編をストップさせていく展望がある。その意味で、今が頑張りどころだと考えております。

## 横田基地はどう変化させられるのか？ - - 日米の戦争司令部、ミサイル防衛の拠点に

米軍横田基地がどのように強化されようとしているのか、3つの特徴点をお話したいと思います。

1つ目は、横田基地が日米の戦争司令部、戦争の拠点にされようとしているということです。

この前、横田基地へ視察へ行きましたが、基地の広報の人は

「今までは横田から海外に行くのはなかなか大変だったけれども、最近では『航空宇宙遠征軍』というのができて、日本中の基地を全部たばねて、横田から飛んで行くケースが最近では頻繁です」と言っていました。これまでの中継基地から出撃基地へと変貌をとげているという実態があるわけです。

また、防衛庁が提出した資料を見ると、横田基地におかれる組織として「日米共同統合運用調整所」とか「日米航空司令部」とあります。名前を聞いただけでも、日米戦争司令部以外の何物でもないことがわかります。イラクなどで血塗られた戦争をやっている米軍と、憲法9条をもつ日本の自衛隊が一つの合同司令部を持つなんていうことは、絶対に許されない。そういう世論を大きくひろげていくことが非常に大事だと思います。

2つ目には、アメリカの「ミサイル防衛」の最前線基地になるようとしているということです。この「ミサイル防衛」というのは、例えば北朝鮮などからアメリカ本土をまもるために、撃たれたミサイルをミサイルで打ち落とす。日本をその最前線基地にしようという計画です。

しかし、この計画、アメリカの議会では大激論が交わされています。この計画に関わっていた元幹部は「ミサイル防衛というのは1万7千キロのスピードで飛ぶゴルフの穴にホールインワンするようなもの」と述べていますけれども、開発が始まっ



9条の会西多摩の堀口さん(左)鈴木おさむ衆院25区予定候補が連帯のあいさつ。